

マッキー！この1年の県議会で

# 何を語ったのか？なにを主張したのか？



年に4回開催される県議会定例会の一般質問は、「美濃加茂へ3つの恩返し」の実現の足掛かりとなる大切なプロセスです。私は、これまでに以下のような一般質問を行ってまいりました。

## 令和5年9月一般質問

### 03 地域の「安心」づくりの視点から 県民のがん先進医療体制受診推進のための支援について

**問** 国の基本計画にある「誰一人取り残さないがん対策を推進」し、県民の健康な暮らしを実現するためにも、県民が等しくがんの先進医療の恩恵を享受でき、がん患者やその家族等が住み慣れた地域社会で生活をしていく中で治療を受けられる環境づくりのため、岐阜県としてもがん先進医療の受診推進に向けた支援ができないか。

**答** 県健康福祉部長  
県では、これまで県内どこに居住していても標準的ながんの専門医療を受けられる体制を目指し、県内全域に計8か所のがん診療連携拠点病院を整備してきた。今般、(中部国際医療センターの)陽子線治療センターの開設により、県内のがん治療の選択肢に広がることから、まずは、県民の陽子線治療の開設により、県民の陽子線治療ニーズを把握するとともに、他県における受診支援の取り組み事例を調査するなど、県としてどのような対応ができるのか、検討していく。



### 01 地域の「元気」づくりの視点から 医療観光についての見解及び今後の対応について

**問** 医療観光は、本県においても、アフターコロナにおけるインバウンドの回復に有効なコンテンツの1つと考えるが、医療観光についての県の見解と今後の対応を問う。

**答** 県観光国際部長  
今後、観光産業の回復のカギとなるインバウンドについては、その主流である個人旅行者を中心に誘客を図っていく上で、ウェルネスの要素を踏まえた「特別な体験」を通じ、本県の魅力を発信していくことが重要と考えている。医療観光についても、こうしたコンテンツの一つになり得るものと考えている。そのため、まずはその受け皿となる医療機関のハード、ソフト両面による体制づくりが重要となることから、健康福祉部とも連携し、県内医療機関の取り組みや、国などの動向を注視していきたい。



## マッキー、胸に手を当てる・・・

私は、現在の県議になる前は、約10年間美濃加茂市議会議員として奉職してまいりました。

日頃よりご支援いただいていた地元県民のあるお方からは、「マッキー、君は市議として美濃加茂市民の税金から毎月36万円の報酬をいただいていたよね。ところが、県議になったら岐阜県民の税金、もちろん、そこは美濃加茂在住の県民からと言い換えてもよいが、毎月85万円の報酬をいただいているよね。

県議の守備範囲は、岐阜県全体ではあるけど、普段の実質的な政治

活動範囲の中心・拠点は、選挙区が美濃加茂市域のために、市議時代と基本的には重なることとなるよね。日頃から、胸に手を当てて、しっかりとこれを認識して、美濃加茂市民(県民)のために粉骨砕身していかなくちゃあかんぞ!・・・。」と厳しくも温かいご指摘・ご指導をいただいております。

この有難いご指摘・ご指導に対しては、私は、「はい、しっかりとこのことを胸に手をあてて刻みこみ、今後とも謙虚に、かつ、前向きに取り組んでまいります!」とお応えしているところです。



6 牧田 秀憲

## 令和6年3月一般質問

### 01 地域の「元気」づくりの視点から 商工会議所等における 小規模事業者支援体制の強化について

**問** 近年、県内小規模事業者のニーズが高く、その存在感も高まっている商工会議所等の経営支援体制強化について、基準の見直しを含め、来年度以降どのように進めていくのか。

**答** 県商工労働部長  
商工会議所等の役割の重要性や会員数の拡大を踏まえ、令和6年度は、小規模事業者数を基準とした職員定数に対して、経営指導員を商工会議所等に加配した。併せて、経営指導員の研修内容を充実しスキルアップを図るなど、支援体制を強化していく。また、今後の職員定数については、事業者ニーズや会員数の推移など実情を踏まえ、引き続き検討する。

### 01 地域の「元気」づくりの視点から 若者の県内就職促進に向けた 取り組みについて

**問** 若者の県外流出が課題となっている中、若者の県内就職促進の取り組みについて、市町村や商工会議所等との連携も含め、どのように進めていくのか。

**答** 県商工労働部長  
県内就職の促進にあたっては、市町村、商工会議所等の団体や企業と幅広く連携し、  
①県内企業の知名度向上、  
②令和6年度に創設する「奨学金返還支援制度」のような県内就職に対する動機付けの向上、  
③最大の流出先である愛知県への通勤・通学者向けの取り組み  
以上3つの視点で施策を展開していく。



## 内外に誇れる美濃加茂!

このたび、美濃加茂市が、「自立持続可能性自治体」として、全国65自治体に選ばれました。県内では本市のみです。

(令和6年4月24日発表 民間の「人口戦略会議」の地方自治体「持続可能性」分析レポートより)

- 本市の人口増加数(対比平成27年調査) 1,305人(県下2位)
- 同 人口増加率2.4%(県下3位)
- 外国人定住 5,974人(2023年6月末)
- 総人口に占める外国人割合 9.1%(県下1位)
- 2020年と比較した2050年時の人口減少率 95.2%
- …本市は県内で最も人口減少率が低い自治体(県平均74.2%)

こうした、人口的側面から自立持続可能性の高い自治体をさらなら高みへ後押しするべく、「美濃加茂へ3つの恩返し」の視点から、誠心誠意、諸施策の実現に取り組んでまいります。